

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成18年度事業報告

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日
所在地 〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
電 話 03-5841-5839
FAX 03-5841-5898
URL <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

現状と課題（平成 18 年度）

はじめに

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11（1999）年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授・助教授各 1 と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各 1 に、それらを補佐する助手 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを平成 15 年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期待されている。

平成 15 年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。(個別のプロジェクトについては別表参照)

平成 18 年度は、「アジア古籍電子図書館」、「東洋文化研究所所蔵アジア写真資料集成データベース」事業への新たな取り組みをおこない、その成果をセンターのウェブサイト上で公開した。

成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行した。全国文献・情報センター長会議、全国漢籍データベース協議会総会への参加、アジア・バロメーター運営委員会、セミナーの主催をはじめ、学内外の関係機関との交流を深めた。

2004 年度に開始された東アジア研究の促進事業は、2003 年の ASEAN+3 ミーティングで、日本が提唱し、承認された事業である。2005 年 1 月に ASEAN+3 の 13 カ国（日本を含む）と AUN: ASEAN University Network の研究者を招き、2 日間のミーティングを行い、NEAS: Network of East Asian Studies という組織を立ち上げた。当センターが、第 4 回会合まで幹事機関を務めることになっている。2007 年 1 月 29 日から 30 日には本学で、第三回東アジア研究促進ネットワーク会合を開催した。2008 年に、第 4 回会合をタイ国で開催することを決定した。

A 人員・施設

1. 教職員

研究情報センター長	教授	小川 裕充
研究情報センター	教授	丘山 新
	助教授	玄 大松
	助教授	榭屋 友子
	助手	保城 広至
業務係	係長	笠井 伊里

2. 施設

現在面積

事務室	64 平方メートル
作業室 1	24 〃
作業室 2	48 〃
計	136 平方メートル

B 本年度実施状況

1. センタープロジェクト

研究情報の収集、資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し、実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト……重点プロジェクトに移行することを目的として、試行的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

重点プロジェクト

1. 貴重漢籍の保存とデジタル化／丘山

[文献]

◆全体計画

東文研所蔵の貴重漢籍の保存のため、特別貴重書から順次マイクロ化・デジタル化を進める。併せて、デジタル資料をネットワーク上で公開する。平成 17 年度までに約 550 件、12 万コマを撮影、公開した。特別貴重書とともに、閲覧頻度が高く、痛みが激しいものも優先的にこの作業を進める。

◆今年度の進捗状況

3 万コマを遡及入力した。

◆具体的な成果物

<http://hong.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2. ダイバー写本の画像データベース作成／鎌田

[文献]

◆全体計画

本研究所所蔵のアラビア語を中心とする写本集成であるダイバー・コレクションの冊子体カタログをデジタル化し、検索に便ならしめるとともに、写本自体をデジタル化して保存・利用に資することを目標とする。写本資料の利用が簡便になることで、テキストの出版がかならずしも十分でない西アジアの文献研究を大いに補完することをねらっている。

◆今年度の進捗状況

画像技術室および外注にて準備してきたコレクション (1) の高解像度のカラーデジタル画像に対して、蔵書印の透かしを入れ、冊子体カタログのテキストをウェブ公開に相応しい形態に加工し、両者を組み合わせたデータベースの作成を完了した。昨年度公開したコレクション (2) のデータベースと合体させることで、一体的にカタログの検索と、そこから該当写本の画像の閲覧が可能となり、世界的にもユニークなデータベースとなった。またウェブページの英語化の準備も一部行った。

◆具体的な成果物

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.htmlにて 2006 年 12 月より公開

3. アジア美術画像アーカイヴ／小川

[造形]

◆全体計画

当研究所では、この 60 年来、世界の公私コレクションに所蔵される中国絵画の調査・撮影を実施し、写真資料の収集・公開に努めてきた。その結果、資料点数は無慮 20 万点に及ぶ。本プロジェクトは、これを中核として、東南アジア彫刻スライド資料 2 万点など、新たなものを加えるとともに、さらに工芸分野にもわたる調査・撮影旅行を実施して、総合的なアジア美術画像アーカイヴの構築を目指すものである。

◆今年度の進捗状況

今年度は、東アジア及び東南アジア調査旅行を実施した。対象国・地域は、台湾・シンガポール・香港、及びタイである。前者においては、中国絵画約 700 点の調査撮影を行い、後者においては、バンコク国立博物館などに所蔵される東南アジア彫刻約 100 点の補足調査を行った。また、昨 17 年度に実施したインドネシア補足調査に基づき、上記の東南アジア彫刻スライド資料 2 万点のうち、4 割ほどの整理を終了した。

4. 中国美術関係資料の収集とデジタル化／板倉

[造形]

◆全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。昨年度より開始したアジア美術プロジェクトであるが、ここでは引き続き中国絵画の作品データの収集を行うこととする。その上で、アジア諸地域における美術の様相を比較・検討していく基礎とする。

◆今年度の進捗状況

今年度も引き続き継続して写真のデジタル化を進め、公開中の中国絵画所在情報データベースおよび東アジア絵画史研究文献目録のデータの修正を行った。又、他機関のデータ構築を見学、情報の整理方法について検討を行った。

◆具体的な成果物

中国絵画所在情報データベース 公開中

東アジア絵画史研究文献目録 公開中 2007 年 3 月データ大幅更新

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

5. イスラーム美術作品画像アーカイヴ／梶屋

[造形]

◆全体計画

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術作品の調査研究を行って収集した画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追求と形成がいかんにか美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するもの

である。

◆今年度の進捗状況

アメリカ合衆国ホノルルのドリス・デューク・イスラーム美術財団が所蔵するイスラーム期ペルシア・タイルの写真を整理し、その銘文を解読して、86点をデータベースに入力した。また、入手したヴィクトリア・アンド・アルバート美術館所蔵のタイル写真の保存状態を維持するために1点1点を保護フィルムに入れて整理した。

◆具体的な成果物

美術館および美術財団所蔵品の画像については著作権の問題があるため、公開形態も含めて検討中である。

6. 東文研蔵アジア写真資料データベース／平勢

[造形]

◆全体計画

当研究所が戦前以来今日にいたるまで研究上の必要から収集してきたアジア関係の研究者新資料を集成し、インターネット等で公開しようとするもの。

◆今年度の進捗状況

昨年度立ち上げた『東文研蔵アジア写真資料集成データベース』に、今年度新たに「デリーの中世イスラーム史跡：図面・拓本・地図集成」、「デリーの中世イスラーム史跡：建物種類・時代・地図からの検索」、「関野貞収集中国碑碣拓本資料アーカイブ」、「東方文化学院東京研究所旧蔵写真資料データベース」の4つのホームページを新規公開し、既存のページをリニューアルした。

◆具体的な成果物

デリーの中世イスラーム史跡：図面・拓本・地図集成

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/delhi-monuments/index.html>

デリーの中世イスラーム史跡：建物種類・時代・地図からの検索

関野貞収集中国碑碣拓本資料アーカイブ

<http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html>

東方文化学院東京研究所旧蔵写真資料データベース

http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/torinami_top/index.html

植民地期ビルマの土地関係資料写真データベース

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hashii/index.html>

東アジアの亀跡

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihi/index.html>

7. 東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築／梶屋

[造形]

◆全体計画

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター管理の「東京大学インド史跡調査団写真資料」は、1999 - 2001年「インド・イスラーム史跡データベース」（中里、深見）、2002 - 2004

年「イスラーム地域造形資料データベース構築」(榎屋)を通じてデジタル化、データベース構築が進行されてきた。写真のデジタル化は平成17年度をもって完了したが、現在失われた史跡も多く含んだこの貴重な写真資料が世界的に、より多くの研究者の利用に供することができるようにするため、データベースの改良と資料の出版を進めて行きたい。

◆今年度の進捗状況

2005年度までにデジタル化を終えた写真5000点の画像データ、および物件ごとの解説テキストデータを加え、「デリーの中世イスラーム史跡：建物種類・時代・地図からの検索」を公開した。また、インド史跡調査団が作成した図面を写真撮影・デジタル化し、そのうち、100点を「デリーの中世イスラーム史跡：図面・拓本・地図集成」において公開した。なお、両者ともに、ブラウザ上で画像を詳細な部分まで確認できるよう、拡大可能なページとした。

◆具体的な成果物

インド・イスラーム史跡データ・ベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml>

デリー検索データベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/newsearch.html>

8. アジアバロメーター／田中

[研究情報]

◆全体計画

2003年以来継続しており、2005年度から科学研究費補助金特別推進経費も得て実施している「アジア・バロメーター」というアジア各国での共通世論調査の分析を進めるとともに、そのデータを体系的に整理し、順次公開していく。一般的な分析の公開とともに、全体の生データをすべて、研究者に利用可能な形で提供するホームページを運営する。また、世界的に行われているその他の世論調査データについてもリンクなどを充実させる。

◆今年度の進捗状況

平成18年度には、儒教文化圏である7カ国(日本・中国・韓国・台湾・香港・シンガポール・ベトナム)において、世論調査を実施した。そのデータを国内外の研究協力者と分析し、最終的に英語版と日本語版の本を出版した。そのほか、国内外の研究者を招き、東京でワークショップとシンポジウムを開催した。その成果物はこれから順次出版する予定である。また、公益と学問の発展のために、データの普及と共有に努め、これまでの世論調査のデータをウェブ・サイトで公開する作業を進めた。

◆具体的な成果物

<http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/>

9. アジア研究情報ホームページ(Gateway)

[研究情報]

◆全体計画

日本のアジア研究に関する情報を収集・発信するとともに、研究者に最先端の研究動向や各種の研究情報を相互に交換する公共的な情報交換の場となることを目指す。また、世界に開

いた日本のアジア研究情報の窓口となるウェブサイトを構築し、日本の基本情報を提供する拠点とする。

◆今年度の進捗状況

今年度は、日本語版と英語版サイト双方の情報の充実化を図った。英語版サイトのコンテンツは、主に、研究エッセイ、日本のアジア研究（日本のアジア研究機関、日本で出版された英文のアジア研究一覧、日本の大学でアジア研究するためのガイドや留学生向けのサイト集、アジア研究図書館）世界のアジア研究（世界の主要研究機関、アジア諸国の図書館ガイド）から構成され、18年度は研究エッセイの情報を更に増やした。また、同じく日本語版の方も論集、アジア学の最前線に、若手研究者達のエッセイを掲載し、研究会情報にも定期的な更新を行った。また、日本のアジア研究機関、世界のアジア研究機関を更に修正・追加した。

◆具体的な成果物

1. 日本語版

写真で見るアジア

http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/html/a_photo.html

エッセイ

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/html/asw.html>

研究会情報

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/html/infomation.html>

2. 英語版

エッセイ

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/ess014.html>

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/ess015.html>

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/ess013.html>

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/ess012.html>

試行プロジェクト

10. インターネット公開のための電子辞書作成プロジェクト／永ノ尾

[文献]

◆全体計画

[趣旨] 現存するサンスクリット資料とチベット訳資料を用いて、すでに散逸した膨大なサンスクリット原典資料の論理的再構成を支援する環境（構文対照電子辞書）を構築する。

[作業概要] 現存するサンスクリット資料とそれに対応するチベット訳資料を電子データ化し、両者を構文レベルで対照させる。さらに、利用者の入力した原典未詳のチベット文（＝検索キー）と類似するデータを蓄積データの中から選び出し、チベット語・サンスクリット語構文対照の形式で出力するサーバを構築する。

◆今年度の進捗状況

サンスクリット原典の現存する以下の各資料につき、チベット訳資料との構文対照データを作成し、検索用サーバに搭載した。

資料名	サイズ(バイト)	シラブル数
<i>Nyāyabinduṭīkā</i>	438	49
<i>Suvarṇaprabhāsottamasūtreṅdrarāja</i>	130	11
<i>Sarvatathāgatādhiṣṭhānavyūha</i>	78	8
<i>Saddharmapuṅḍarīka</i>	202	9
合計	850	78

表 1 平成 18 年度作成データ (平成 19 年 3 月 8 日現在)

◆具体的な成果物

eDic の Web サイト

<http://suzuki.ypu.jp/edic/>

eDic の検索サイト

<http://www-asia.human.is.tohoku.ac.jp/demo/eDv/html/>

11. 英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデジタル化／高橋

[文献]

◆全体計画

東洋文化研究所には通称チッティサージョウツと呼ばれる植民地期ビルマにおいて作成された手書きの土地・借入金文書が 5000 部ほど所蔵されている。本プロジェクトはこれまでのビルマ経済史研究の中で全く利用されることがないこの史料を整理して、デジタル化、データベース化することにある。具体的作業は、スキャナーで文書を読み取り、契約の内容(年月日、場所、当事者、抵当物件、借金額等)を英文で整理し、ファイルメーカーでフォーマットして、データベース化することである。

◆今年度の進捗状況

東洋文化研究所に所蔵している文書のうち、農地の貸借についての文書 271 枚をスキャナーで読み込んでデジタル化した。さらにこれらの文書一枚一枚について、書かれた年月日、場所、貸し手と借り手あるいは売り手と借り手といった当事者、農地の種類、面積、場所、価格(質入の場合は貸与金額)、質入期間、買い戻し条件、質流れの条件、証人等について細かく分類し、エクセルでデータベースを作成した。

◆具体的な成果物

上記文書と写真 10 枚とを結び付けて、平勢写真科研と一緒に公開予定。

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hashii/index.html>

12. アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト／鈴木

[文献]

◆全体計画

古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館構築にあつて、アジアの主要地域に 3 つの

文字圏として捉え得ることに鑑みれば、各文字圏についてポリグロット・グロサリーを作成し、常に利用しうる体制としておくことは、それ自体が多言語による電子図書館のレファレンス部門として不可欠の意味を持つとともに、古籍研究自体にとっても強力な武器となるであろう。ここで、アジアの3大文字圏中、とりあえずアラビア文字圏を対象として、ポリグロット・グロサリー作成に取り組むこととしたい。

◆今年度の進捗状況

本年度は、前年度のアラビア語・ペルシア語・オスマン語・トルコ語の基本的辞書のデジタル化作業をふまえ、アラビア語・ペルシア語・トルコ語のもっとも基本的な辞書の見出し語を、アラビア文字のアルファベット配列に基きつつ、コンピュータに入力する作業を進めた。また、CD化した辞書を加工してポリグロット・グロサリーとして編集するための基礎作業についても、前年度に引き続き、手法確立のための試験的作業を進めつつある。

一般プロジェクト

13. ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料／永ノ尾

[文献]

◆全体計画

ヴェーダ文献とポスト・ヴェーダ期の儀礼文献が伝えるさまざまなレベルの儀礼に関する情報を項目別に分類整理して収集し、儀礼研究の基本資料を作成する。毎年、授業や研究発表のために読む文献から、それらの情報を蓄積していく。

◆今年度の進捗状況

平成18年度の進捗状況:今年度はヴェーダ祭式のなかの最も複雑な構造をもつサットラ祭、更にヴェーダにおいて恐ろしい神の代表であるルドラに関する儀礼、神々の王といわれるインドラを柱を立てて行う礼拝儀礼、そして降雨儀礼を中心に儀礼情報を集積した。

◆具体的な成果物

具体的な成果:儀礼研究基礎資料のデータベースは2007年3月19日現在15,329,377バイト、96325行になっている。

14. 東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース／大木

[文献]

◆全体計画

東京大学東洋文化研究所が所蔵する約8万点、25万冊に及ぶ漢籍について、その書名・撰著者はじめその他の詳細な書誌項目を含めた目録情報のデータベースである。

◆今年度の進捗状況

平成18年度も従来の作業を継続してすすめる。現在、科学研究費補助金(研究成果公開)を申請中である(5年計画第4年度)。本年度は、四庫全書未収書の子目を入力する予定である。台湾国家図書館との国際協力が実現したので、本年度からは、中国との国際協力を実現

すべく、協議を開始したい。

15. 仁井田コレクション北京文書の整理／黒田 [文献]

◆全体計画

仁井田コレクションの北京契約文書は 18-20 世紀における清代の社会生活、北京の商業活動・不動産などの取引および都市の社会経済構造に関する情報が多く含まれている貴重な資料である。関連の情報収集を含め、これらの契約文書を項目別に分類整理して、資料の目録データベース構築・デジタル化と研究を進めていく。

◆今年度の進捗状況

仁井田コレクション北京文書の中の清代における生活用水売買関連の文書部分を撮影し、デジタル化を行なった。

16. アジアのエリートと組織の比較研究の為にデータベース作成に向けての基礎作業／鈴木 [文献]

◆全体計画

アジアのエリートと組織についての基本資料についてのデータベース作成とそのため資料の選択を行い、利用法の検討をも目指す。当面、アジアの諸文化圏中、アラビア文字圏と漢字圏を比較研究の対象とする。

◆今年度の進捗状況

18 年度には、データベース化に備え、当該資料用の対象資料リストの作成整備に努めた。

17. 旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化／平勢 [造形]

◆全体計画

当研究所が戦前以来今日に至るまで研究上の必要から収集してきたアジア関係の研究写真資料を集成し、インターネット等で公開しようとするもの。

◆今年度の進捗状況

1. 東文研蔵戦前のアジア調査写真 DB (鳥居龍蔵・関野貞撮影分)
 2. 東アジア写真資料 DB (青銅器銘文関係画像・日中韓亀趺写真資料、魏書用画像)
 3. 東南アジア写真資料
 4. 南アジア写真資料
 5. 西アジア写真資料 (西アジア歴史的都市)
- を作成し、WEB 上にて公開した。

18. インドネシアの更紗 (バティック) 画像データベース作成／関本 [造形]

◆全体計画

趣旨：申請者はこれまで、アジアにおける地場産業・伝統技能の研究の一環として、インドネシアの更紗製造業調査を続けてきた。いま手元にある更紗布地約 200 枚について情報を公開したいので、画像データベースを作る。200 枚のなかには美術工芸的に興味深いものも、

そうではないが更紗製造業の多様性の資料として意味のあるものもある。この両者を対象にする。

(変更点) 最終的に確定した撮影予定の更紗は約 200 枚である。

◆今年度の進捗状況

ジャワ更紗布地 198 枚を産地ごとに分類整理し、製作年代、サイズ、色、柄を記した目録を製作した。これについて野久保技術職員の協力を得てデジタル撮影を完了した。

19. データベース 20 世紀・21 世紀年表／田中

[研究情報]

◆全体計画

20 世紀から 21 世紀にかけて、世界と日本でおきた政治・経済・社会・文などに関するできるかぎり詳細な年表データベースを作成するプロジェクトである。2005 年末の時点で、1900 年から 2001 年末までのデータ 197, 566 件が収録され、常時公開され、検索可能な状態となっている。平成 17 年度末までに 2002 年末までのデータを入力する予定である。今後、収録データをさらに 2005 年までに延長するために行うプロジェクトである。

◆今年度の進捗状況

1. 2003 年から 2005 年にかけての世界的な重要事項約 20000 件を選定し、一定の基準に従う年表形式の文章とし、入力作業を行う。
2. 選定事項について、内容チェック、校正をおこないデータを確定する。
3. データ確定にしたがい、順次ホームページで公開する。

◆具体的な成果物

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html>

2. 公開・発信

(a) ホームページの更新・運営

センターホームページ (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) の充実をはかり、平成 10 年度～平成 17 年度の事業報告、平成 10 年度～平成 18 年度の漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、研究情報の提供を目的とする「アジア研究情報 Gateway」英文サイト共に、公開情報の更新を行ってきた。平成 19 年 1 月に「NEAS」のホームページ (<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/NEAS/index.htm>) を増設した。

(b) 研究成果・新規データベースの公開

長澤規矩也氏旧蔵書、明清時代の戯曲小説類約 3,000 冊は、漢籍はアジア古籍電子図書館・漢籍善本全文影像資料庫内で既に一部公開済みであるが、「東洋文化研究所所蔵雙紅堂文庫全文影像資料庫」で全てを、順次公開して行く計画である。このほか、「東洋文化研究所所蔵アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」、「東京大学総合図書館所蔵南アジア・サンスクリット語写本データベース」、「インド史跡調査／デリーの中世イスラーム史跡：図面・拓本・地図」、「関野貞収集中国碑碣拓本資料アーカイヴ」、「植民地期ビルマの土地関係資料データベース」、「東アジアの亀跡」、「東方文化学院東京研究所旧蔵写真資料データベース」が新たに加わり、貴重資料の公開範囲をさらに充実させた。

(c) アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

(d) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』は第 16～17 号を刊行し、全てのバックナンバーの PDF ファイルをホームページ上で配布している。東洋学研究情報センター叢刊第 7 輯『東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録』を刊行した。

(e) 漢籍整理長期研修

平成 18 年度は 6 月 19 日～9 月 8 日に実施し、8 名が受講した（日程及び受講者名簿は 21～22 頁を参照されたい）。6 月 19 日～23 日の 1 週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の学生 4 名が受講した。

(f) 平成 18 年度全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

当センターを含む 5 つの文献・情報センターが過去 13 回共同開催してきたが、16 年度から、各センターが個別に企画・開催することになった。本年度は、東京大学法学政治学研究科附属外国法文献センターが附属諸センターの統廃合に伴い 5 センターの枠組みを離れることになった。そこで、4 センターとして活動した。当センターは 10 月 19 日（木）日本記者クラブ（東京）において、当センタープロジェクト「アジア・バロメータ」に関するシンポジウムを中央大学と共催で実施した。

3. 平成 18 年度全国文献・情報センター長会議（第 42 回）

平成 19 年 1 月 26 日（金）に神戸大学経済経営研究所会議室にて行った。文部科学省からは研究振興局情報課学術基盤整備室・大学図書館係長が参加した。4 センターを中心とする今後の組織的なあり方を討議し、統一テーマによる人文社会科学学術情報セミナーの開催等について討議した。

C 平成19年度の事業目標

平成19年度は、従来どおり、17年度より始めたセンター事業に対する抜本的な再検討を継続する一方、センター経費に加えて、新たに外部資金を導入するなど、16年度より改めた点は継承しつつ、既存の事業の整理・統合を実施し、新規事業を展開する。

第一に、センター事業の基軸をなすセンタープロジェクトのうち、文献資料分野においては、従来どおり、古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館の構築というグランドデザインのもと、アジア各地域の多言語資料を順次データベース化し、その公開を継続的に実現してゆく。センター経費に加えて科学研究費補助金をも投入するこの事業の重点は、研究蓄積が進んでいる東アジアの漢籍資料に置く。また、造形資料分野においては、新規事業の第3年度として、やはり科学研究費補助金（基盤研究S）とセンター経費とを基盤として、従来から継続してきた中国絵画のそれを中核とするアジア美術画像アーカイブの構築をさらに推進する。また、文献・造形両資料分野にまたがるものについては、これまでの成果を踏まえつつ、センター・プロジェクト経費により、東洋文化研究所所蔵写真資料のデータベース構築を継続する。なお、本項目で言及したプロジェクトに関わる個別のプロジェクトについては、別表を参照されたい。

第二に、平成15年度から開始した新しい型の研究情報プロジェクトについては、アジア・バロメーターの一層の充実を目指す。また、同年のASEAN+3首脳会議で東アジア研究の促進が合意され、東アジア研究ネットワーク（NEAS）の構築事業の事務局を担当する。

第三に、研究所内外の研究成果の公開・発信事業としては、同じく平成15年度から開始したアジア研究情報ゲートウェイを維持・発展させ、本19年度からは、従来のようなセンター・プロジェクトではなく、センターの恒常的な事業として位置づけ、費目をセンター共通経費からの支弁に変更する。また、これまで四半世紀にわたって継続してきた漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』、及び内外の研究者を編者に迎えて、東洋学関係の各種資料を公開する『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行する。さらに、全国文献・情報センター長会議や同共催セミナーへの参加をはじめ、学内外の関係機関との交流を促進する。特に最後の件に関する問題として挙げられるのは、4センターとなった全国文献・情報センター長会議の枠組を如何に再構築してゆくかである。

改めて言うまでもなく、上記に述べた積極的な事業展開のためには、センター経費だけでは不十分である。昨年度に引き続き、科研費などの競争的経費を獲得して各種事業を展開するとともに、安定的な資金の確保をも模索したい。また、センタープロジェクトの発展に伴い、作業スペースを拡大するとともに、各種データベースや文献・造形資料などの公開スペースを確保することも、センター改組・拡充以来の重要な課題である。

なお、先に報告した当研究所建物の耐震改修工事については、幸いにして、昨年度に補

正予算による処置が認められ、既に最終的な疎開も完了、同工事の開始を待つばかりになっており、本年度中に実施・完工の予定である。各方面のご協力により、各事業も、一部を除いて、ほぼ順調に推移している状況であるので、なお一年、センターの全力を結集してこの難局に対処してゆく所存である。各方面に引き続き協力方を願う次第である。

これまでのセンタープロジェクト一覧

	プロジェクト名／担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
1	現代中国書データベース／岡本	セ	一般							国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開（現在は終了）。
2	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築／池本						試行			データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html
3	インドネシアの更紗（バティック）図像データベース作成／関本							一般	一般	資料のデジタル撮影完了。
4	『アジア・バロメーター』／猪口、田中				重点	重点	重点	重点	重点	ウェブサイトを公開。 http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/ 刊行物：『アジアバロメーター 都市部の価値観と生活スタイル』 『Human Beliefs and Values in Striding Asia』 毎年シンポジウム2回開催。
5	アジア研究情報ホームページ／長澤、小川					試行	重点	重点	重点	データベースを公開。 http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/
6	戦後日本政治・外交データベース／田中						一般			データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html ※No. 7に発展的に継続。
7	データベース20世紀・21世紀年表／田中							一般	一般	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html
8	東アジア族譜データベース／宮嶋	セ	重点	重点						データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm
9	在外日本企業作成資料のデータベース化／濱下			試行	重点	試行	試行			
10	仁井田コレクション北京文書の整理／黒田							一般		資料のデジタル撮影完了。
11	江戸・明・古代プロジェクト／平勢			一般	一般	一般	一般	一般		データベースを公開。 http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html /
12	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化／平勢						試行	試行	一般	センター叢刊6輯『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 I』
13	東文研蔵アジア写真資料データベース／平勢							重点	重点	データベースを公開。 http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihu/index.html

	プロジェクト名／担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
14	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化／高見沢、丘山、尾崎	セ	重点	重点	重点					東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
15	東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース／大木	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	データベースを公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
16	東洋文化研究所図書室漢籍検索システムの編成／尾崎					一般	一般			http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html に反映。
17	貴重漢籍の補修とデジタル化／丘山					重点	重点	重点		「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全文影像資料庫」として公開。 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/ ※No. 18に発展的に継続。
18	貴重漢籍の保存とデジタル化／丘山								重点	データベースを公開。 http://hong.ioc.u-tokyo.ac.jp/
19	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化／尾崎		試行	試行	試行	試行				データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html ※No. 20に発展的に継続。
20	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係記事データベースのメンテナンス／尾崎						試行			データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/
21	中国絵画デジタルアーカイヴプロジェクト／板倉、小川	セ	重点	重点	重点	重点				データベースを試験公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ ※No. 22に発展的に継続。
22	中国絵画資料の収集とデジタル化／板倉						重点			続編データをアップし公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ ※No. 23に発展的継続。
23	中国美術関係資料の収集とデジタル化／板倉							重点	重点	データベースを公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/
24	アジア美術画像アーカイヴ／小川							重点	重点	
25	Tibetan-Sanskrit構文対照電子辞書構築／鈴木(隆)	セ	一般							Tibetan-Sanskrit構文対照電子辞書を公開(現在は作成者の所属機関＝山口大にサーバを設置)。 http://suzuki.ypu.jp/edic/
26	南アジアの言語の辞書のデジタル化／永ノ尾						試行			
27	インターネット公開のためのサンスクリット語及び中世ペルシャ語電子辞書作成プロジェクト／永ノ尾						試行	試行	試行	H18年に※No. 25プロジェクトを継承。 http://suzuki.ypu.jp/edic/ http://www.asia.human.is.tohoku.ac.jp/demo/eDv/html/
28	東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化／永ノ尾						試行	試行		サンスクリット語写本データベース http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp 2006年4月より公開。
29	ヒンドゥー儀礼基礎資料作製データベース／永ノ尾						一般	一般	一般	

	プロジェクト名／担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	
30	英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース化／高橋					試行	試行	試行	試行	データベースを公開。http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hash/index.html
31	内蒙古出土学術資料のデータベース化／後藤	セ	重点	重点						データベースを所内限定公開。2003年横浜ユーラシア文化館、2004年古代オリエント博物館に資料を出陳。
32	インド・イスラム史跡データベース／中里、深見	セ	重点	重点						データベースを公開。http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml※No. 33に発展的に継続。
33	イスラーム地域造形資料データベース構築／梶屋				試行	試行	試行			データベースを公開。http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml※No. 34に発展的に継続。
34	東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築／梶屋							重点	重点	データベースを公開。http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/newsearch.html
35	イスラーム美術作品画像アーカイヴ／梶屋							重点	重点	
36	イスラーム地域文献資料データベース構築／長澤				重点	重点				※No. 37に発展的に継続。
37	西アジア近代史文献資料データベース構築／長澤						重点	重点		データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html
38	ダイバーコレクションのデータベース化／鎌田					試行	試行	試行	重点	データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html
39	アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト／鈴木							試行	試行	
40	アジアのエリートと組織の比較研究の為にデータベース作成に向けての基礎作業／鈴木								一般	
41	東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化／大田				重点	重点	重点			刊行物：東洋学研究情報センター叢刊第4輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史目録』2004年、『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』2005年。
42	中央アジアの伝統的な地域社会組織—マハッラ研究データベース構築／ダダバエフ						試行	一般		『東洋文化研究所紀要』第166冊100-149p. 出版物：『マハッラの実像』

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002.
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所所蔵夕嵐草堂文庫目録 2003.
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004.
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004.
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005.
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 I 2006.
- 第7輯 東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007.

東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和41年度）1968.
- 第2輯 清代地方劇資料集（一）1968.
- 第3輯 清代地方劇資料集（二）1968.
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969.
- 第5輯 郁達夫資料 1969.
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和42・43年度）1970.
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（上）1970.
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（中）1970.
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（下）1970.
- 第10輯 李大釗文献目録 1970.
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970.
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970.
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971.
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌（一）1971.
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（1）1972.
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（2）1972.
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（3）1972.
- 第18輯 郁達夫資料補篇（上）1973.
- 第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973.
- 第20輯 目録学 1973.
- 第21輯 花間集索引 1974.
- 第22輯 郁達夫資料補篇（下）1974.
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（一）1975.
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976.
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（二）1976.

- 第26輯 民国以来人名字号别名索引 1977.
- 第27輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(一) 1978.
- 第28輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(三) 1978.
- 第29輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978.
- 第30輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(四) 1979.
- 第31輯 儀礼疏攷正(上) 1979.
- 第32輯 儀礼疏攷正(下) 1979.
- 第33輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(五) 1980.
- 第34輯 小説月報(1920-1930) 総目録 1980.
- 第35輯 コミンテルン定期刊行物 中国関係論説・記事索引 1981.
- 第36輯 魯迅文言語彙索引 1981.
- 第37輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(二) 1981.
- 第38輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(三) 1982.
- 第39輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(六) 1983.
- 第40輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(上) 1983.
- 第41輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(四) 1983.
- 第42輯 校合本 大越史記全書(上) 1984.
- 第43輯 『植民地雜誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1984.
- 第44輯 校合本 大越史記全書(中) 1985.
- 第45輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985.
- 第46輯 宋之間詩索引 1985.
- 第47輯 校合本 大越史記全書(下) 1986.
- 第48輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(下) 1986.
- 第49輯 許舒博士所輯 広東宗族契拠彙録(上) 1987.
- 第50輯 沈佺期詩索引 1987.
- 第51輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国 職官歴任表 1987.
- 第52輯 韓国政治エリート研究資料 -職位と略歴- 1987.
- 第53輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(五) 1988.
- 第54輯 許舒博士所輯 広東宗族契拠彙録(下) 1988.
- 第55輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 -六朝隋唐宗教・思想資料- 1988.
- 第56輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(六) 1988.
- 第57輯 郁達夫資料総目録附年譜(上) 1989.
- 第58輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(七) 1989.
- 第59輯 郁達夫資料総目録附年譜(下) 1990.
- 第60輯 山西票号資料 書簡篇(一) 1990.
- 第61輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(八) 1990.
- 第62輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目(九) 1991.

- 第 63 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目録載雑誌名索引
1992.
- 第 64 輯 許壽裳日記 (自 1940 年 8 月 1 日至 1948 年 2 月 18 日) 1993.
- 第 65 輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書 乾泰隆文書 (1) 1995.
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 (書名・人名索引)
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録 (書名・人名通檢)
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録 (アメリカ・カナダ編) 1977.
- 別輯 3 海外所在中国絵画目録 (東南アジア・ヨーロッパ編) 1981.
- 別輯 4 日本所在中国絵画目録 (寺院編) 1982.
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982.
- 別輯 6 日本所在中国絵画目録 (博物館編) 1982.
- 別輯 7 日本所在中国絵画目録 (個人蒐集編) 1983.
- 別輯 8 中国經濟關係雑誌記事総目録 (一) — 『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月刊』 — 1983.
- 別輯 9 孟郊詩索引 (上) 1984.
- 別輯 10 孟郊詩索引 (下) 1984.
- 別輯 11 中国經濟關係雑誌記事総目録 (二) — 『國際貿易導報』 — 1985.
- 別輯 12 中国經濟關係雑誌記事総目録 (三) — 『中行月刊』 — 1985.
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録 (A Catalogue of the Articles in Tijdschrift voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985.
- 別輯 14 中国經濟關係雑誌記事総目録 (四) — 『銀行週報』(上) — 1987.
- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧 — 山西省出土文字資料 — 1988.
- 別輯 16 中国經濟關係雑誌記事総目録 (五) — 『銀行週報』(下) — 1989.
- 別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (ヨーロッパ編) 1992.
- 別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 上 本文編) 1994.
- 別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 下 索引編) 1994.
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995.
- 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (東アジア編) 1997.
- 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998.
- 別輯 23 天津史文献目録 1998.
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999.

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成18年度漢籍整理長期研修 日程・科目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月19日(月)	9:30～ 10:00	開講式(9:30～10:00) オリエンテーション 漢籍版本目録概説 (10:00～17:00)	講義	小川 裕 充 (東洋学研究情報センター長) 大木 康 (東洋文化研究所教授)	
6月20日(火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井波 陵 一 (京都大学教授)	
6月21日(水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (1)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館助教授)	
6月22日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (2)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館助教授)	
6月23日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤本 幸夫 (富山大学教授)	
6月29日(木) ～ 9月1日(金)		所属図書館所蔵漢籍整理及 び研究	自習		
9月4日(月)	9:00～ 17:00	東洋文庫について	講義	中善寺 慎 (東洋文庫司書)	東洋文庫見 学を含む
9月5日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長澤 孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月6日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と 構築	講義	安岡 孝一 (京都大学助教授)	
9月7日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	長谷川 修、細井 歌寿男 (宮内庁書陵部)	
9月8日(金)	9:00～ 16:30	中国書史概説	講義	高橋 智 (慶應義塾大学助教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		小川 裕 充 (東洋学研究情報センター長)	

※都合により課目・講師等を変更することがあります。

平成18年度漢籍整理長期研修研修員名簿

No	所属図書館	氏名
1	金沢大学附属図書館	むらた かつとし 村田 勝俊
2	筑波大学附属図書館	みねざし ゆみ 峯岸 由美
3	中央大学図書館	かなつ ゆきこ 金津 有紀子
4	明治大学図書館	いとう ともこ 伊藤 朋子
5	国立国会図書館	おおぬま よしき 大沼 宜規
6	東京都立中央図書館	ひらばやしあけみ 平林 あけみ
7	横浜ユーラシア文化館	えば やまき 江場 山起
8	津図書館	なかがわ ゆたか 中川 豊

平成18年度東洋学研究情報センター <運営費>決算

予算及び決算

(単位:千円)

予算費目	当初予算	追加配分	決算額	備考
研修事業	694		735	
4センター事業	270		138	
出版事業	2,752		2,046	
センター事務室の維持管理	1,924		1,823	賃金含む
東アジア研究促進会議費	0		98	
プロジェクト支援資料購入費	0		800	
センタープロジェクト費	11,314		11,314	
計	16,954	0	16,954	

決算額内訳

(単位:千円)

予算費目	内 訳	決算額	備考
研修事業	漢籍講師員等旅費	184	
	漢籍講師謝金	520	
	漢籍教材費	31	
4センター事業	センター長会議旅費	138	
出版事業	ニューズレター用原稿・翻訳・校閲謝金・出版費	316	
	センター叢刊出版費	396	
	学術情報セミナーシリーズ	453	
	通信費・封筒印刷費	726	
	東アジア研究促進報告書	155	
センター事務室の維持管理	複写費	122	
	備品費	1,043	
	消耗品費	233	
	デジタル化推進経費	395	
	賃金	30	
東アジア研究促進会議費	東アジア研究促進会議費	98	
プロジェクト支援資料購入費	プロジェクト支援資料購入費	800	
センタープロジェクト費	センタープロジェクト費	11,314	内訳は次ページ参照

平成18年度東洋学研究情報センター <運営費>決算

平成18年度センター運営費プロジェクト 決算報告

(単位:千円)

No	プロジェクト名称	担当教員	予算	決算
3	アジア美術画像アーカイヴ【美術】	小川	3,920	3,920
4	中国美術関係資料の収集とデジタル化【美術】	板倉	1,167	1,167
5	イスラーム美術作品画像アーカイヴ【美術】	榊屋	213	212
8	アジアバロメーター	田中	1,197	1,191
9	アジア研究情報ホームページ (Gateway)	小川	3,320	3,328
12	アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト【古籍】	鈴木	1,497	1,496
計			11,314	11,314

【古籍】「アジア古籍電子図書館」、【美術】「アジア美術画像アーカイヴ」の各サブプロジェクト。